

○議長（樋口英一君）

次に、伊藤文博議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。〔9番 伊藤文博君登壇〕

○9番（伊藤文博君）

清生クラブの伊藤文博です。

本日は糸魚川市の将来を左右する総合計画の策定方針と、糸魚川市の未来を背負って立つ子供たちを、日本一の子育てシステムの中で育てるという一貫教育方針の状況の2点について質問いたします。

1、総合計画基本構想、基本計画、実施計画の策定について。

地方自治法の改正により、総合計画基本構想については法的な策定義務がなくなり、策定するかどうか、議会の議決を経るかどうかは市独自の判断に委ねられることになりました。

行政改革特別委員会では、基本構想の期間、基本計画の前期後期の区分け、ローリングの実施計画の定め方について検討すると説明がありましたが、現在の基本構想の最終年度は平成28年度であり、次の総合計画を充実したものにしていくための政策検討に必要な時間を考えると、方針を早

+

く決定しなければなりません。

次の点について伺います。

- (1) 総合計画策定に関わる議会との協議、議会議決の可否をどのように考えているか。
- (2) 基本構想、基本計画、実施計画という現在の枠組みを変更するのか。その場合の構成はどのように考えているか。
- (3) 基本構想、基本計画、実施計画の策定スケジュールは、どのように計画しているか。
- (4) これからは独自のスタイルの計画策定が可能となるが、総合計画があらゆる計画の大もととなることから、市全体のあらゆる計画の関連を意識した市民にも分かりやすい作り方が必要だと考えるのがいかがか。

2、子ども一貫教育方針の実施状況、進捗状況について。

糸魚川市は、平成21年度に「糸魚川市子ども一貫教育方針」を策定し、平成22年度に「糸魚川市子ども一貫教育基本計画」を定めました。既に5年が経過していますが、中学校単位や各年代ごとの取組状況と進捗状況について伺います。

(1) 健やかな体の育成について。

生活リズムの育成による健康の維持・増進を目指していますが、取組状況と成果はいかがか。

(2) 豊かな心の育成について。

周囲とかかわる力の向上による社会性の育成を目指しているが、取組状況と成果はいかがか。

(3) 確かな学力の育成について。

① 交流・連携と学習習慣の育成では、学びの連続と学習習慣づくりによる主体的に学習する力の向上を目指すとしているが、取組状況と成果はいかがか。

② 特別支援教育の充実では、とぎれのない支援体制づくりによる社会的自立を目指すとしているが、取組状況と成果はいかがか。

③ ジオパーク学習の充実では、体験・学習活動によるふるさと糸魚川への愛着の形成を目指すとしているが、取組状況と成果はいかがか。

以上、1回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

1番目の1点目につきましては、基本構想については議会議決を必要とする条例の制定を考えております。

2点目及び3点目につきましては、現段階では基本構想、基本計画、実施計画の構成により、27年度からの2カ年で基本構想、基本計画を策定してまいりたいと考えております。

3点目につきましては、総合計画は各種計画や施策の基本となる市の最上位計画と考えておりまして、各種計画との関連についても十分配慮しながら策定作業を進めてまいります。

2番目の子ども一貫教育方針の実践状況、進捗状況についてのご質問につきましては、この後、教育長から答弁いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

おはようございます。

伊藤議員のご質問にお答えいたします。

2番目の1点目につきましては、家庭や園、学校と連携を図りながら取り組んでおり、事業の取り組み後に改善が見られることから、効果があるものと認識しております。

2点目につきましては、道徳の時間や人権教育、同和教育を柱に、体験活動などとの関連を図りながら社会性を育て、年々、不登校児童生徒が減っている状況であります。

3点目につきましては、各中学校区で幼・保と小学校、小学校と中学校の連携を進めており、共通した学習ルールや家庭学習の習慣づくりに取り組んでいるところであります。

また、特別支援教育につきましては、幼・保と小学校、小・中学校の接続、中学校卒業後の進路について各中学校区とも途切れのない支援体制づくりに取り組んでいるところであります。

ジオパーク学習につきましては、学校支援地域本部事業の推進により、地域コーディネーターが各中学校区に1人から2人配置され、地域の人・物・事に積極的にかかわる教育活動に取り組んでいるところであります。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

総合計画から聞きます。

来年の3月14日が新幹線の開通日に決定されて、それまでの糸魚川市の対応に加えて開通後の取り組みの重要性を強く感じる状況となってきました。

定住人口対策や交流人口対策をはじめとした課題を、総合計画にどのように取り組んでいき、ほかの計画の見直しを含めた整合性を図っていかなければならない。議会が次の総合計画確定にどのようにかかわるのかは、議会がまたみずからも考え、取り組み方を決していく必要があるのは言うまでもありませんが、行政側にも議会側と真の両輪となって検討していく姿勢が必要だと考えます、形式的ではなくて、これはどう考えますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

総合計画、特に基本構想、基本計画の部分につきましては、これまでもその時々に応じたいろんな議会と行政の連携という部分でとってきたところであります。しかしながら、今回の策定作業も来年から本格的に迎えることとなりますけれども、置かれている状況というのは前回の後期計画、あるいはまた、その前の前期計画についても状況は大きくまた変わってきているというふうに思っておりますので、これからの策定に当たっての話となりますけれども、やはり議会との連携という部分については、これも外すことのできない場面だと思っておりますし、特に、また議会のみということではなくて、市民の皆さんとのという部分も非常に大事なことになるのではないかなというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

議会だけではなくて、各商工団体等との意見交換というのも重要になってくると思いますね。地方自治法のかせが外れて、一応、議会議決は必要なくなったというんですが、先ほど市長のほうで条例制定を考えているというお答えをいただきました。

市長の政策を補完し、ふくらませていくために、我々、現在19人の議員ですが、この議会の経験と知識を有効な形で生かしていくということは、必ず糸魚川市の将来にとって有益なことになるであろうというふうに我々も思っているところですが、計画策定の段階でぜひ今答弁にありましたように、対話を重視して進めていっていただきたい。

最終的には議会との協議によって、今後の計画の議会との協議のスケジュールというのが決まってくると思うんですが、早目に協議をしてもらおうと。議会側も、そこに対する認識と準備をしていかなければいけないということなので、議論の時間をしっかりと確保するために早目の協議をしてもらいたいと思いますが、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

齊藤企画財政課長。〔企画財政課長 齊藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（齊藤隆一君）

スケジュール的なお話であります。スタートは、やはり基本構想の策定方針というところから始まっていくんだろうというふうに思っております。

これらにつきましては、当然、所管の委員会にもご報告、ご相談申し上げながら、スケジュールを組んでいきたいというふうに思っておりますし、これまでの議会との取り組みの中では議員派遣による協議の場、あるいはまたこちらから、市長のほうから全員協議会という形での協議の場、いろいろな形がこれまでもとられてきたというふうに思っております。

今後も全体スケジュールをお示しする中で、また積極的なご意見もいただきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

基本構想等の枠組みですね、これはどうも3段階になっている意味があるのかどうかというところも、やっぱり見直していかなくちゃいかんと思うんですよ。これは前から少し疑問だったんですが、基本構想と基本計画をまた1つにすると、期間の検討も含めて。また、基本計画の中で前期、後期という見直しは、いかにも不自由だということも感じています。自由に見直しができれば、前期、後期に分ける必要もなくなるという、そういう総体の枠組みをどう検討するのか、今のところの考え方でいいですから、お示してください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

基本的な枠組みということで、今、伊藤議員のおっしゃったとおりに進めてきたところでありまして、ただ、過去においては策定期間満了を待たずして大きくは社会経済情勢と、例えば高速交通体系の大きな変化があったというような状況変化によって、期間の満了を待たずに新たな第2次の計画をつくったという経過もあるわけでありまして。

よって、過日、行政改革特別委員会でも少しお話をいたしました。基本構想と基本計画と実施計画、実施計画は別にしても基本構想と基本計画の一本化ということも、今後の検討の中にあるというふうに思っていますし、伊藤議員の言われる10カ年ということも、決してこだわるものでもないというふうにも思っています。

事実、全国の自治体を見ますと、8年があり、9年があり、12年があり、もちろん10年が一番多いわけでありまして、これらもこれまでの中では10年という一定の縛りがあるかのような取り組みで進めてきたのも事実でありますけれども、この段階では期間設定をどうするかということも、1つは大きな課題だろうというふうに思っていますので、これらも含めた骨子を、できるだけ早い段階でまとめたいたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

基本構想であっても地方自治法の枠から外れて、従来の自由な取り組みができるようになりましてね。ここはやっぱり随時、見直しができる柔軟な取り組みが必要になると。10年間決めたら、それは構わないで、下位の計画で構っていくんだという考え方は、やっぱりちょっと違うと思うんですよ、そこで縛られていくわけですから、いかにもやっぱり変更しないまま、10年というのは長いですね。

市長の任期は4年で、10年というとは3期にまたがることになる。そうすると市長選挙での公約も取り入れることが構想にはできない。そうすると構想と実施計画の整合性が、どこかで損なわれるというようなことになるんですね。やっぱり市長の公約が、総合計画に生かされていくような仕組みが重要であるというふうに考えるんですが、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

お答えいたします。

議員ご指摘のとおりと私も受けとめておりまして、今、国も大きく変わろうとしている部分もございます。また、地方、県も変わる、また我々もやはり今、変わらなくてはいけない部分も数多くある中において、10年というスパンというのは非常に長いスパンになるわけでございますので、そういうことを考えたときに、やはり柔軟にもうちょっとそれは進めていかないかんだらうと。本当の基本は変わらないにいたしましても、やはり大きく変えなくてはいけないところもあろうかと思っております。

当市においてもジオパークを取り入れたときに、その辺を十分感じておるわけございまして、やはり議員ご指摘のように、どの辺にもっていくのか、また、どのように進めていくのかというのも頭に入れながら、策定したいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今のやり方ですと市長がかわらなければ、多少変えて加えていけば何とかなっていくかもしれませんが、結局、長く計画を定めても、市長がかわったときに政策が大きく変われば、総合計画をまるっきり組み直すというようなことも必要になってくる。そういう状況もみんな考えた中での、やはりこの制度設計というのが必要だろうと思いますね。

また、財政計画が同時に検討され、随時、更新されていかなければいけない。これはやはり総合計画の一部であるんですけど、同時に見直していけるような仕組みにしていかなきゃいけないと。必ず計画が変われば財政計画に少しずつ手直しを加えながらも、常にリンクした形で検討されていくという取り組みが今度は必要になるでしょうね、財政的に厳しくなればなるほど、これはどう考えていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

総合計画にかかわる市の財政計画の件ですけれども、当然、今の段階でも10カ年ということであれば、10カ年の市の財政計画も裏づけとしてつけることとなりますので、作成しておりますが、なかなか財政計画も3年先、5年先を見通すという部分も非常に難しいこともあります。そのために実施計画の段階でまずは5カ年をつくり、3カ年のみ実施計画に掲載をしているという形をとっているわけでありまして、財政計画も含めて今の基本構想、基本計画という枠組みを検討していかなければならないというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

3年、5年先を見通すのが難しいからこそ、常に見直していかなきゃいかんということになるんですね。それが確実に動かないもんなら、そんなにしょっちゅう動かさなくていいことになる。

スケジュール的には2年ということなんですが、これはやはり今の総合計画というその制度といえますか、計画自体の構造を決める制度設計の時間も含めて、十分な検討ができる時間が果たしてあるでしょうか。これまでの総合計画とはちょっと違う形で進めていかなきゃいけない。例えば枠組みだけは、こういう形にするんだという構造的な設計だけは今年度中にやるとか、何かそんなことを考えてますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

実作業は来年からというふうにお話ししましたが、前準備とすれば今の総合計画の策定条例の制定も含めて26年度内の作業と、いわゆる前準備作業が出てくるというふうに思っております。

実質2カ年と言いましても、策定後も今度は翌年度、本計画を始まる年度を想定いたしますと、当然、予算の関係も出てまいります、実施計画の関係ももちろん出てまいりますので、2カ年すっぱり策定期間があるという捉え方ではなくて、あくまでも実質1年半ぐらいだろうという想定もしているところであります。遅くても28年10月、11月ぐらいまでに策定をしていくというスケジュールが、後ろから押されるスケジュールになりますけれどもしていかなければ、今度、次につながる新しい年度のスタートができないということになりますので、実質2カ年という意味ではなくて、2カ年度にわたって行いますけれども、作業的には1年半ぐらいの審議期間ではないかというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

その中で多くの部や課にまたがる課題を、どのように協議していくのかですね。1つには企画主幹、新しくできた部署ですが、これがどうかかわっていくのか。また、企画主幹同士の連携をどうするのか、そして総務部長、企画財政課長との連携ですね、当然、市長の政策に基づいていくわけですが、これをどのように進めていくんでしょうかね。企画主幹が、どういう役割を果たすかも含めてお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

金子総務部長。〔総務部長 金子裕彦君登壇〕

○総務部長（金子裕彦君）

お答えいたします。

ことし新たに企画主幹という位置づけの職員を配置したところでございます。各部全体にわたる部

門については、各部長が連携をとりながら進めておりますが、その補完という形で企画主幹に働いていただいております。

総合計画については、今、伊藤議員からお話のありますように総合的な計画でございます。庁内にいろいろな課題がある中で、特に部をまたいで課題の取り組みが非常に重要だと思っております。そういう中で、具体的に庁内での検討組織をどのようにするかというところは、現在、まだ未定でございますけれども、企画主幹も含めてそういう庁内の組織を、今後、検討していきたいと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

前回の基本構想、先ほど答弁にありましたように、全員協議会で議会と協議しました。

これはそのときの例なんです、少子化対策という言葉が一言も入ってなかったんです、そのときに。そのときの会議に出ていた方が、どれだけおられるかわかりませんが、国では少子化対策担当大臣を定めて対応していたときですよ、ちょうど猪口さんでしたかね。そのときに糸魚川市の基本構想の中に、少子化対策という言葉が一言も入ってなかったんです。それを私は、ほかの人も含めてですが、3回の会議で、全員協議会は3回ですよ、3回目にしてやっと、こちらから文案まで指定した形で盛り込まれた。

なぜ少子化対策が入らなかったかと言うと、これは多くの課にまたがる施策、やっぱりその事業だからですよ。縦割り行政の中で、各課から持ち上がったものを取りまとめるというやり方をしていたために、少子化対策という言葉すら挙がってこなかった。こんなことがあっちゃいかんですね、今度は。そうならないような、前回のこの1つの例を挙げても、このことに対する反省も含めて、どのような取り組み方をしていくかというのが、非常に大事になってくると思っております。これはびっくりするような話ですからね、どうですか、考え方。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

織田副市長。〔副市長 織田義夫君登壇〕

○副市長（織田義夫君）

お答えを申し上げます。

前回の基本構想担当は私のほうでやりましたので、その辺の少子化につきましても、その辺の経緯を十分承知しております。

今回はそういうことも含めまして、今現在の基本計画につきましては第1章から第6章ということで、縦割りでやっております。その辺がいいのか。人口問題とかそういうものにつきましても、今度はもっと横断的な対応も必要ではないかということで、前回の反省を踏まえまして、今後、計画の枠組みをつくっていきたく思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。



○9番（伊藤文博君）

やっぱりそれぞれ担当課がありますからね、縦割りの中で協議することは大事でしょうし、その連携をどう調整を図っていくかという段階が必要ですし、その全体を俯瞰的に見ていく立場の人のチェック体制も重要であるというふうに思いますね。

総合計画はやっぱり最上位の計画ですから、あらゆる計画が総合計画に基づいたものでなければなりません。ここをしっかりとっていくには、ただ総合計画を改定になるから決めればよいというのではない、協議が必要である。このあらゆる計画との連携をしっかりと図っていくという段階を踏むには、やはりある程度、今ある計画を見直していく時間が必要であるというふうになると思うんですが、そしてそれが、わかりやすい形で示されていることが、大切だというふうに思いますね。必要に応じて各計画の改定を行い、第2版だとか3版だとバージョン何々だとかというような形にならなきゃいかんと思いますね。各課任せでなく企画担当課、またはその担当をする企画主幹も含めて随時の改定、下位の計画ですよ、その改定にどのようにかわっていくのか、お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

現在、庁内の関係各課で計画という名前のもとか、あるいはまたビジョンというような名前のもとか、表現はいろいろでありますけども、約30本のプランを持っておるわけでありまして、事実、計画期間もそれぞれであります。これはこれとして、今、伊藤議員のおっしゃる部分につきましては、貴重なご意見だというふうに思っております。

やはり5年計画であっても、5年間そのままいけるかどうかという部分は、いろんな取り巻く状況が変わってくることによって課題等も変わってくれば、部分的にでも見直し、改定をしていくという作業が、当然、発生してくるんだろうというふうに思っておりますので、これにつきましては総合計画策定に絡めてということもありますけども、絡めなくてもそれはやらなければならないことではないかというふうにも思っておりますので、当課でまた庁内の関係課と、その辺はまた連絡をとり合っていきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そのような考え方をしっかり持っていってもらおうと、今の段階では、やはりそこが大事だと思います。

総合計画のどこがもとになって、何々計画というのができ上がっているということが明確になっていなければいけませんし、また、これまでの計画でも上位の法律や条例との関連、総合計画との関連も含めて明確にうたっているものと、そうでないものがあると思いますね。

策定した側は、いろいろなことをわかっていてつくっていますが、それは計画は一般に示していくもんですから、そこがわかりやすい形になって示されていく必要があると思います。各計画にそ

このところがしっかりうたわれているかどうかというところ、これはある程度、書き出しのこのフォーマットが同じになるというようなこともあるかもしれませんが、要するに、みんなにわかりやすく示すんだというところで、そういうところが必要になってくると思いますね。これはやはり統一を図っていつてもらいたいと思いますけど、どうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

伊藤議員のおっしゃられていることは、やはり計画をつくって終わりということではないということ。計画に基づいて行動が起こされるという段になって一番大事なことは、作成のプロセスということなんだろうというふうに思っております。短期間でつくり上げて、終わりという計画でないことは十分承知しております。作成のプロセスの中に、全職員であるわけでありまして、いかに参画をしていくかという部分だと思っておりますので、その辺には、また十分意を配していきたいというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

微妙にちょっと答弁がずれたと思うんですけど、大分前ですけど、まだ文教民生常任委員会と言っていた時代ですけど、同じ日に審査した2つの計画が、片一方には、上位法律から条例から、市の中のほかの計画も関連づけたものが図式化されて示されていた。片一方には、それが全くなかったというようなことがあったんですね。僕がさっき言ったのは、そういうことがわかりやすく、例えば根拠がそれによってわかる。だからわからんところが出てきたら、そこの法律を見ればいいのか、そこの条例や計画を見ればいいのかということがわかるということが大事だということなんですね。そこを共通していく必要があるんだろうというところですけど、もう一度お願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

大変失礼しました。

やはり総合計画を市の最上位計画という位置づけをしているものであれば、いわゆる個別の各種計画の中において総合計画からのいわゆる位置づけ、根拠という部分は、明確にしていく必要があるというふうに思っておりますので、今後の各種計画策定に際しての留意点というふうに捉えておりますので、ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

これまで基本構想の見直しが行われなかったために、策定後、数年たつと別のものとして歩き出してしまふ、ほかの部分も歩き出してしまふというような傾向が、否めなかったと思うんですね。やはり対象となる期間中、常に施策の中心となるように見直しを図りながら活用していくと。各計画との関連、施策との関連も明確にしていくということが必要になると思うんですが、ぜひそういうつくり込み方をしていただきたいと思います。

我々議会としても今後の政策を考えていく上で、総合計画策定の方針やスケジュールを念頭に置いて、議会運営を考えていく必要がありますね。我々の会派の中でも上越市議会のように、少子化対策、人口問題対策に対して、特別委員会を設置してでも検討していかなくちゃいけないんじゃないかと。今度の総合計画に生かしていくためにもというような議論もされています。新しい総合計画策定に向けての考え方を早目に固めて、そして議会と本当に両輪となるような実りのある議論をする中で、またほかの商工団体や民間の方々との意見交換も十分にできる機会を設けると、そういうスケジュールでやっていただきたいと思うんですが、これは総合計画、最後の質問ですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

斉藤企画財政課長。〔企画財政課長 斉藤隆一君登壇〕

○企画財政課長（斉藤隆一君）

前段でも申し上げておるとおり、来年4月からのスタートということだけでなく、前準備も含めて今年度内から準備を進めていくわけでありますので、議会の皆さん、特に所管の常任委員会には早い段階でお示し、早い段階というのは年度内のことでありますけれども、年度内にお示しできるような形で進めていきたいというように思っております。

○議長（樋口英一君）

昼食時限のために暫時休憩します。13時まで休憩します。

〈午前11時59分 休憩〉

〈午後 1時00分 開議〉

○議長（樋口英一君）

休憩を解き会議を再開いたします。

午前中に引き続き会議を開きます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

それでは、子ども一貫教育方針のほうに入ります。

一貫教育方針が定められて、この間、ずっと取り組んできてるわけですが、取り組みの成果がどのように市民や、そしてまた市外にアピールされているかということなんですね。結果の広報を含

めて、どのように取り組まれていますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

成果のほうは、それぞれ全てにわたっての成果というのは、数字としてなかなかあらわすことができませんが、生活リズムのほうにつきましては、いろんな機会を通じまして保護者のほうに伝えております。全体としては、これからその成果の伝え方について、広報については、これから検討させていただきたいというふうに思っております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

子ども一貫教育方針全体の話になりますけど、やはりその成果の広報と言いますか、活動状況の報告も含めて全く足りないと思うんですよ。例えば市のホームページを見ても一貫教育方針だとか、計画のほうが出てはいますが、その結果、どういう取り組みをして、どんな活動してますと。子供たちの活動の中での生き生きした状況をいつでも誰でも見て、糸魚川市って教育でこんなに取り組んでいるんだなというところが、全く読み取る機会が少ないと思うんですね。やはり糸魚川市は日本一の子育てのまちを目指しているといっても、どこがってというようなことにしかならんと思えますがね、これからでは、これまで何しとったんかという話になりますけど、教育長、どうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

実際にいろいろな場面で実践してるわけです。例えば各保育園ではじゃれつき遊び等を行って、保護者と子供の関係づくりを強調しておりますし、それらが成果として各家庭には伝わっていくと。それから子育ての段階で、それぞれ定期健診があるわけですが、それらの中でもお話をしながら取り組みをしていると。したがって市全体に今後、今こうですよってというような事柄について、今、渡辺こども教育課長が答えたような形で、今後、何か考えていかなければいけないのかな。保護者、それから家族に対してはほぼ、今、取り組んでいる状況の事柄が伝わっていると思っております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私が今言っている話は、実践が足りないと言ってるわけじゃないんですよ。その結果が市民全般

に伝わる、要するに市の政策として、糸魚川市がこれだけ子供の教育に力を入れています、子育て支援に力を入れてますよというものが、もっともっとアピールされていいんじゃないかという視点ですね。

一方、これは私も聞き及んだ話ですけど、上越市へ引っ越した人が、糸魚川市は日本一の子どもを育てると言ってるけど、上越市と比べたらまだまだだわというような話も聞いています。具体的に細かいところの比較は、私の段階でできるわけではないですけど、やっぱり実感としてそういうものもある。ただ、その人に伝わっていった情報がどのぐらいで、それが正しいのかどうかなんてわかりませんが、やはりそこからも取り組みに対してのアピールの弱さが読み取れるということですね。

やはり活動と成果の広報と活動状況、それからこういう成果がありますよという、把握できる範囲の中で、アンケート結果も含めたものでしっかりとやっていかなきゃいけないと思うんですけど、先ほどこれからと言われましたけども、もうちょっと具体的にお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

実は、ことしの5月に先進地ということで、長野県の東御市の一貫教育を勉強しに行っていました。長野県の東御市においては、毎月の市の広報に一貫教育欄というのが半ページないしは1ページ、定期的に使われておりました。それを見て糸魚川市のほうも市の広報の中に、一貫教育のページを定期的に設けてはいかがかというのは課内で検討してまいりました。今年度中に、できればやりたいなというふうに思っておりますが、今、いろいろちょっと手を離せないところ、言いわけになりますがありまして、なかなか実現に向かっておりません。

また7月に、毎年、一貫教育のための研修会を年2回開催しております。ことしは7月、第9回目をやったんですが、今まではリーダー研修の要素が大変強うございました。園長先生、校長先生相手の事業でありました。今年度はPTAの代表、それから学校支援ボランティアの代表も交えたパネルディスカッション方式の研修会を実施しました。

そうしたところ、大変たくさんの保護者の皆様、地域の皆様から出席をいただいたんですが、その中で聞こえた声が、やはり今、議員ご指摘のとおりでありました。初めて知った、そういう方がかなりおられたということは、本当に私どもの大きな反省でありまして、今後もこのパネルディスカッションによるような市民一体の運動につなげていきたい。そこでもって私たちのやってることを広報していくことが、大事なことなんではないかというふうに課題として捉えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

PTAの代表や学校ボランティアの方が初めて聞いたというような状況では、やはり利用する側にも限界があるということになりますよね。教育長、生活リズムの改善について、どのような実感

を持っているのでしょうか。成果ということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

健やかな体の育成のところでは考えていくなれば、子供たちが自己肯定感をきちんと持てるだろうか、そういう子供に育っているだろうか。あるいは、学校の中でもそういうような姿勢が見えるのであろうかというところが非常に重要な部分だろうと思っております。

やはり成果として上がってきている事柄というのが、明るくなってきたと言うんでしょうか、それとも先ほど私が答えました、いろんな問題が起きているんですが、不登校の子供が少なくなってきたりとか、そういうようなところへ成果としての形があらわれてきているのではないかと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今の成果について、どのような実感を持ったかというところは、どのような過程でそれを感じ取ったかということが重要だと思うんですよ。現場の実態をご自分の目で見て、そして実感できてこそ、やはりそれを多くの人に知らせたい。そして多くの人に共通観念の中で、もっとこの効果を広げていきたいという思いにつながっていくと思うんですね。

やはり現場主義じゃなきゃだめだと思います、教育は特にそうですね。教育長も課長も教育者ですから専門家ですけど、やはり現場に行き子供たちと直接接しているときと、今、行政の中にいたとき、かなり歯がゆい思いをしている部分があると思うんですね。それを取り払うのは、やはり現場主義で日ごろの業務をやっていくということが今の広報にもつながっていくし、現場の改善にもつながると思うんですけど、どうでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

現場にいるときは、やはり「学校だより」、あるいは「学年だより」等を使って、学校の取り組みを発信するという事は非常に大事な仕事でありまして、実際、今の小・中学校でもそれをしっかりとやっておりますが、教育委員会としてそれらを取りまとめて、もっともっと発信していかなくちゃいけないと、これは痛切に感じております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

「学校だより」とか「PTAだより」というのは、やはりその関係者しかあんまり見ないんですね。やっぱり地域に出して回覧しても、さっと回覧で流れてしまいで、次に回してしまわなきゃいけないというようなことの中で、そうじっくり読み込む時間がないということもあると思います。やはりあらゆる手段でやってもらいたい。

そして豊かな心の育成のところでは、やはり年代に応じた取り組みというのが重要になると。これは社会性の育成を目指すということを言ってるわけですから、就学前教育では、じゃれつき遊びなどが非常に大きな効果を発揮していると思いますけど、じゃれつき遊びに限って言いますと、現在の状況はどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

お答えします。

園では大変じゃれつき遊びを一生懸命といたしますか、家庭も含めて愛着形成につながることもありまして、子供の体と触れ合うという、親とのそういう愛着形成にもつながりますので、積極的に取り組んでいるところでございまして、園、家庭では積極的に取り組んでいる。子供もやっぱりそういうのが好きでございまして、ふえていくといたしますか、そのような傾向にあるというふうに認識しております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

家庭との連携で何か問題がないかということですね。現場の声では、どうしても子供とじゃれつき遊びができない親もいるということも聞いていますね。現実がそうであるならば、その親を責めても解決はしない。そのような家庭の子供もカバーしていく、または親と一緒に解決していくというような仕組みとしては何かありますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

おっしゃるとおりで家庭もいろいろな家庭がございまして、十分にできないという場合はやっぱり園等で、それを補うような形でやっていかなきゃいけないというふうに考えております。

○9番（伊藤文博君）

答えになっとらんよね。具体的にもうちょっと答えてもらわないと。いいですわ、次いきます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

園で取り組んでいかなきゃいけないというのは、当たり前じゃないですか。そうじゃなくて、そういう家庭に対してそのことを改善していくために、また、子供を補っていくことに対してサポートしていくことも大事ですけど、それに対して、どういう取り組みによってそこを改善していくかというところが、仕組みとしてできているかということですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

親への支援といいますか、今、保育の現場では保育をする以外に親支援、親教育というのは非常に重要になっておりまして、そういう親については特に保育士のほうと積極的な情報交換といいますか、指導等を行うような形で今進めておるところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

はつきりちょっとしませんけど、結局そういうものを解決していくには、やはり専門的な知識が必要である。取り組み方も直接的ではない、非常にやわらかい取り組みが必要だというようなこともありますね。

例えば家に帰ると子供に500円玉1枚置いてあって、それで買い食いさせて食事をさせているような家庭に対しての取り組みの例として、その500円でお弁当を買って置きときましょうよというところから始めて、親がだんだん食事をつくるようになったというような例もあるというように聞いています。そういうような取り組みを親と一緒にやっていって、だんだん子供としっかり触れ合うようにしていくことができるような仕組みがあるかと聞いているんですよ。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

マニュアル的なそういう仕組みというのがあるかということかと思いますが、やはり保育士のほうで、各園のほうで、それぞれ家庭もいろいろ状況が違いますので、個々に応じたそういう状況を聞きながら取り組んでいる状況でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

それでは担当した保育士の能力だけに、依存することになるということになるんです。やはりそ



れを補っていくような何かを考えていかなきゃいけませんね。だから現場の声を聞きながら、そういう仕組みづくりをしていくということが大事だと思います。

もうちょっとひどい例として児童虐待ということを考えていったときに、家庭での大きな問題に発展する前の状況での対応が重要であるというふうによく言われます。現場の相談員の人なんかもそう言う。教育相談員、家庭相談員で常に情報を共有して、問題の段階に応じて遅滞なく対策が講じられていかなければならない。ここはどうですかね。情報を共有して、遅滞なく対策を講ずるといふところですけど。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

そういう問題といいますか、そういう家庭につきましては、家庭児童相談員、あるいは園、また学校では先生になるわけですが、それぞれの関係者が集いまして、その情報を共有して対応していくという体制にはなっております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

このところ全国的に起きている児童虐待の事件の多くは、適切な時期に、適切な対処がなされなかったというところに原因がある。今のようなことは、どこの自治体でも同じ形である。ところが、それが機能しないというところに問題があるんですね。だからそれを常に1人の判断で動くのではなくて、情報を共有しながらお互いの知恵を出し合い、また、足らないところは補完してもらいながら対応できるようになっているというふうに考えていいんですね。漏れがなくできるようになってるといふふうに考えていいんですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊奈教育次長。〔教育次長 伊奈 晃君登壇〕

○教育次長（伊奈 晃君）

それぞれ情報を共有した中で、それ以外の方、あるいは組織、児童相談所等を含めまして、漏れないような形で、今、進めておるといふことでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

担当者1人の考え方ではなくて、組織としての機能が判断に働くようにしなければならない。それがふだんから情報を共有する仕組みをつくることであって、例えば行革で話題になっています、糸魚川市でも実施を検討するという自主的な朝礼、夕礼なんていうものの中で情報共有して、そしてそれがまた、しっかりした会議につながるというふうにしていってほしいと思いますね。

こういうことが教育の現場でもやはり行われていかなきゃならない。学校の中ででも、やはり子供の素行に関する問題、家庭の問題等を常に他人だけではなくて、例えば職員会議という会議じゃないところで、常に情報共有するような仕組みはやっぱり必要だと思うんですけどね、これはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

全ての小・中学校で最低週1回、情報交換の場があります。これは終礼の形もありますし、職員会議の後で行われる場合もあって、それは形はさまざまですが、最低限週1回は情報交換をやっております。

また、月1回は事例研修会と申しまして、その月その月の子供たちの様子を、特に心配な子供について全員で情報を共有して、全体で指導に当たるといふような仕組みになっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そのことがうまく機能しなかった例が、この前から取り上げられているわけですから、やっぱり仕組みがあって、それが機能するということが大事。機能しているかどうかを誰がチェックするかというところが、やはり業務をうまく回していくかなめになるとこだと思うんですけどね、ぜひ仕組みを機能させるようにしていただきたい。

主体的に学習する力の育成という点では、子ども一貫教育を定めてからどのような変化があったか。例えば全国学力テストの中で、生活習慣についても調査されておりますが、そういうものを含めて把握できてたらお願いします。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

子供たちの学習習慣が非常に大きな問題になっておりまして、その学習習慣の育成ということで、中学校区単位でここ数年取り組んでまいりました。

小学生については、毎日1時間以上勉強するという子供が、全国平均を上回っております。問題は中学校であります。中学校でふだん1時間以上勉強している子供、ここ数年ふえています。ふえています、全国平均よりもかなり下回っております。この点が今、中学校区での大きな課題の1つとなっております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

そうすると、今の取り組みが不足してるというふうに分析できるのか、この取り組みをどういうふうに改善していかなきゃいけないのかです。せっかく一貫教育方針で定めて、日本一の子どもを育む、育てると言ってるわけですから、これはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

お答えいたします。

先ほど申しあげましたように、微増ではありますが、中学校でも着実に、1日1時間以上勉強する子供はふえております。これは1つの成果かなと思っております。ただ全体として、全国平均よりも下回っている。このこと自体は非常に分析が難しいというふうに感じておりますが、私たちが今年度、この8月に担当を交えて分析した結果を申し上げますと、また来年のために予算要求等も含めて考えているところでありますが、やはりわかる授業に。中学校へ行った途端に、小学校で頑張っているのに、中学校で続いてないんじゃないかというところです。

中1ギャップとよく聞かれますけれども勉強方法、あるいは勉強の相談体制、こういったものも中学校の教科担任制と小学校の学級担任制に、やはりギャップがあるんじゃないかというところでありまして、その中学校へどう支援をしていくかというのを今現在、来年度の予算要求の中でどこまでできるのかなということで、今考えているところであります。要するに、マンパワーであります。人をやっぱり入れていかなきゃいけないというところを考えております。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

やっぱり教育は手間をかけることですからね、手間をかければお金もかかる。だけどかけた以上の効果を出さなきゃならない。

ここで言う学びの連続とは、発達段階に応じて夢や目標を持って、その実現に向けて学び続けることだと思いますけど、みずから進んで勉強するには、目的意識がないと続かないと思いますね。究極には自分の人生を考える力を養うということだと私は思っていますが、そこまでいなくても当面の目標設定でもいい場合もあるとして、教育の現場で指導者が共通観念を持ってそういう指導をしていく、目標を持たせる。例えばさっき究極と言いましたけども、おまえの人生、それでいいのかというようなことの中で、子供自身が人生って1回しかないんだということを認識した中で、自分のことを考えていくという機会を持たせていかなきゃいけない。そういう共通観念をしっかりと、各校の先生方に浸透してますでしょうかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

いわゆる今キャリア教育と私どもは呼んでおりますが、今年度から県のほうでも重点課題の1つとして取り上げてまいりました。小学生段階からやはり身近な働く人を通じて、働くことへの意義ですね、そういったものを子供たちに見詰めさせる。そして中学校では、いろんな職業観がある、それをキャリア教育の中で実際に体験を通しながらも学んでいく。そのために中学1年生では上越地方へ出かけて行って、いろんな大学とか専門学校を見ているし、2年生では夏休みを使って、実際に身近な地域の企業に体験をしに行っております。このようなことを通じて子供たちに職業観、プラスその中から自分の将来を考える、そういうふうな機会を勉強に取り入れているというところでもあります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

私は自分が子供が多いこともありますけど、剣道を通じて多くの子供たちとかかわってくる中で、やはり常にベストを尽くす力を導き出すのは、自分の人生を考える力だと思うんですよ。そして時間は二度と戻らない、人生は一度しかないということを感じて常に植えつけていくと、考える力をつけていくということだと思うんですね。やっぱりそこをしっかりと教育現場で職業観というのは、その中の一部分であるという捉え方の中で対応してもらいたいというふうに思いますね。

特別支援教育の充実では、途切れない支援体制づくりと言ってますけど、ハンディを持った子供たちに対する施策の進展状況はどうであるかと。

前の本間さんが副市長だった時代に、重複障害児の市内での受け入れ体制、支援体制について質問して、前向きに検討しなければならないという答弁をいただいておりますね。その検討状況というのはどうでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

答えになるかどうかわかりませんが、今現在、途切れない支援ということで進めてまいっておりますのは、乳幼児期から健診で相談があった場合は、発達支援センターめだか園があります。ここが相談に乗っております。実際に通室指導といいますか、各保育園からここへ通ってきて発達相談を受けている場合もあります。

また、これを通じて学童期に入ってくるわけですが、学童期におきましては小・中学校で当然、特別支援学級がありますし、また、糸魚川市立ひすいの里総合学校ができましたので、そちらのほうで支援体制に臨んでいるわけです。

この中で今、ことし特に重点的に取り組んでいるのが、相談支援ファイルといいまして、乳幼児期からどのような期間に相談をして、どのような指導を受けてきたか、これをずっと積み上げていく。これができれば、できればって、まだ実は年齢がたっていないので、そこまでいってないんですが、就労時期、ここまでつなげていくことによって一貫した、その子供のための指導が実現可能になるというふうに今取り組んでおります。

以上であります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

今の答弁は、次に質問しようと思ったことの答弁だったんですけどね、僕が今聞いたのは重複障害児ということで聞いたんですよ。

市内で例えば日単位でも受け入れてくれるところがないし、それから送迎についての支援についても専門の看護師さんが必要だということで、なかなか難しいということで、できていないというようなことの中から前向きに検討したいということだったんですけどね、これはどうですか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

ただ、非常に重度の場合、それがさらに重度になったような場合には、やはり糸魚川の学校では無理であるということで、上越、あるいは高田の特別支援学校へ通っている、こういうのが現状です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

全くちょっとかみ合っていないので、これはまたやりますわ。今の流れではちょっと時間が足りなくて解決できません。

ジオパーク学習ですが、これは国内のほかのジオパークを学習するという機会も必要ですし、糸魚川のジオパークをほかの地域の人に学習してもらおうというような取り組みも必要だと思いますけど、そして糸魚川をもっと好きになってもらおうと、これはどうですかね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

渡辺こども教育課長。〔教育委員会こども教育課長 渡辺寿敏君登壇〕

○教育委員会こども教育課長（渡辺寿敏君）

子どもがジオパーク学習と呼んでおりますのは、地元の世界ジオパークがあるということで、そ

ういうところから言ってるわけですが、大事なところは、ふるさと糸魚川を愛する心情を育てるんだということが、一番大きなところだと思います。

そのためには、やはりみずからかかわって、経験として学ぶということが大事であります。この中には地元のジオパークだけでなく、ほかのジオパークと比べながら学んでいくというのは、非常に大事な視点かなというふうに、今、お話聞いて私も思いました。これからもそのような形で、あんまり地元、足元ばかり見詰めないで、もっと広く見ていくこともこれからは入れていきたいと思ひます。

ありがとうございました。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

1つ確認ですが、過去の教育長答弁には、日本一の子どもを育むとは、日本一の子育ての仕組みづくりであるということでもあります。その考えは変わってないですね。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

竹田教育長。〔教育長 竹田正光君登壇〕

○教育長（竹田正光君）

お答えいたします。

そのとおりです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（樋口英一君）

伊藤議員。

○9番（伊藤文博君）

では、それを共通認識として、常に糸魚川市の子育ての仕組みを点検し、成果を確認しながら継続的改善を進めていただきたいと思いますようお願いをして、質問を終わります。

ありがとうございました。

○議長（樋口英一君）

以上で、伊藤議員の質問が終わりました。